

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報 (U)

平1-64365

⑫ Int. Cl. 4

B 24 D 3/06  
7/00

識別記号

序内整理番号

⑬ 公開 平成1年(1989)4月25日

B - 7712-3C  
P - 7712-3C  
D - 7712-3C

審査請求 未請求 (全3頁)

⑭ 考案の名称 電着砥石

⑮ 実願 昭62-183964

⑯ 出願 昭62(1987)12月2日

優先権主張 ⑰ 昭62(1987)6月29日 ⑱ 日本 (JP) ⑲ 実願 昭62-99962

⑩ 考案者 茂木 克巳 埼玉県北本市下石戸上1925番地3 三菱金属株式会社ダイヤモンド工具製作所内

⑩ 考案者 下前 直樹 埼玉県北本市下石戸上1925番地3 三菱金属株式会社ダイヤモンド工具製作所内

⑩ 出願人 三菱金属株式会社 東京都千代田区大手町1丁目5番2号

⑩ 代理人 弁理士 志賀 正武 外2名

⑪ 実用新案登録請求の範囲

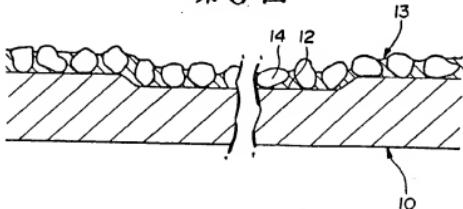
- (1) 台金に超砥粒を電着してなる砥粒層を形成した電着砥石において、前記砥粒層の研削面に複数の凹部を形成したことを特徴とする電着砥石。
- (2) 前記凹部の深さは、超砥粒の平均粒径以下であることを特徴とする実用新案登録請求の範囲 第1項記載の電着砥石。
- (3) 前記凹部の砥石周方向の幅は、砥粒平均粒径の3倍以上かつ砥石円周の1/6以下であることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項または第2項記載の電着砥石。
- (4) 前記凹部と凹部以外の砥粒面との面積比は、3:7~7:3であることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項または第2項または第3項記載の電着砥石。

図面の簡単な説明

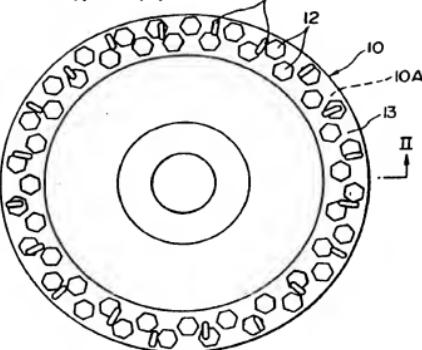
第1図ないし第4図は本考案に係わる電着砥石の第1実施例を示し、第1図は平面図、第2図は断面図、第3図は断面拡大図、第4図は同砥石の使用状態を示す平面図である。また、第5図は本考案の第2実施例の平面図、第6図は第2実施例の変形例を示す平面図、第7図および第8図は本考案の第3実施例を示す平面図および断面の拡大図である。一方、第9図および第10図は、従来の電着砥石の使用状態での側面図および平面図である。

10…台金、10A…凸面、11…スリット、12…凹部、13…砥粒層、14…超砥粒、20…カツブ形台金、20A、20B…凹部、21…砥粒層、30…やすり台金、31…大径超砥粒、32…小径超砥粒、33…凹部。

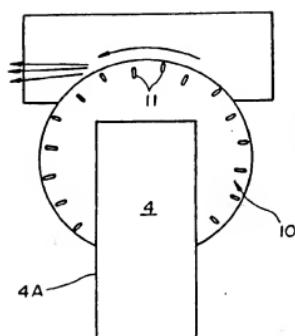
第3図



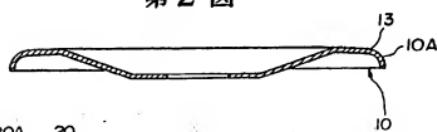
第1図



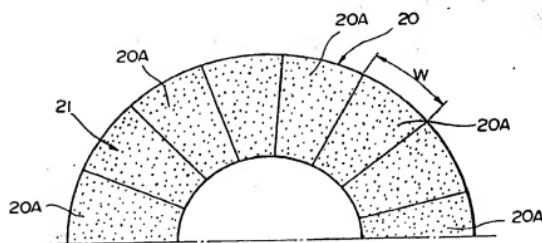
第4図



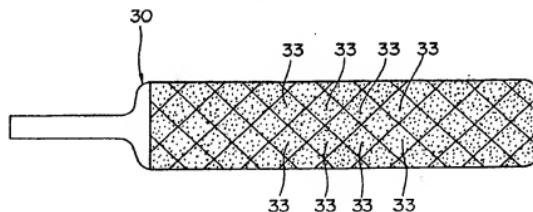
第2図



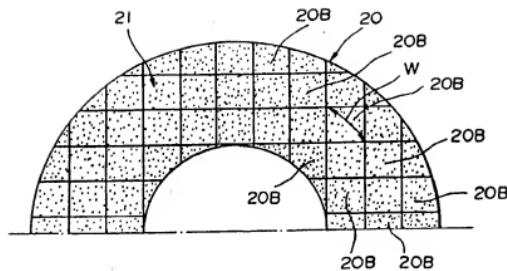
第5図



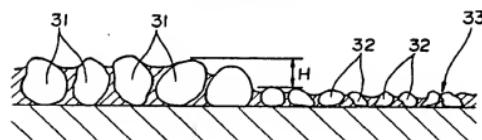
第7図



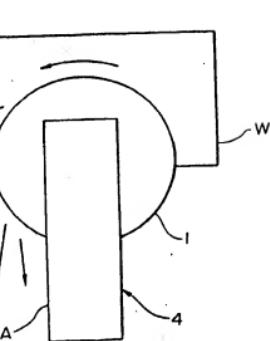
第6図



第8図



第10図



第9図

